令和3年度「ながさき水産業大賞」受賞者の概要

1. 長崎県知事賞

部門名	受賞者名	概 要
魅力ある 経営体部門 (経営強化の部)	(対馬市)	長男が水揚げしたアナゴを、次男・三男が調理・加工して、地元消費者、観光客に直接 提供する生産販売体制を整え、生産者価格、高鮮度を信条にして、高い顧客満足度を得 る総合経営を実現した。「すし処慎一」を拠点としてアナゴ生産地であることが観光資源と して活用できることを実証した。 アナゴ料理は、対馬の食文化として、また新たな観光資源として高く評価され、観光業の 活性化や雇用創出にも大きく貢献している。
魅力ある 経営体部門 (技術・担い手の部)	学特 技术 事崎 康文 (対馬市)	自身の操業データにスマートアプリの海洋情報を重ね合わせ、イカ釣の漁場形成に関係する環境パラメータを特定した。さらに、様々な海洋情報から、漁場形成の予測手法を導き出し、好漁場に狙いを定めるスマート漁業を実現した。 類い稀な探究心を持って臨んでいる海況情報のモニター活動は、試験研究機関が発信する様々な海況情報シミュレーションの精度向上に大きく貢献しており、長崎県のスマート漁業推進に欠かせぬ存在となっている。
魅力ある漁村地域部門	ズザキハエナワセンダン 水崎延縄船団 (対馬市)	船団員の長期操業漁獲データを基に、県外沖合底曳網漁業との協議を重ね、アカムツ資源保護区設定(神士協定)の双方合意に至り、以降10年以上にわたり沿岸と沖合漁業が協力して、資源の持続的利用を推進している。さらに、統一した鮮度管理や活魚出荷により経営安定も実現した。 意識向上は島内漁業者に広がり、クエ延縄漁業の操業禁止期間も設定される等、漁業者が一体となった資源の持続的利用体制づくりに進展している。

2. 長崎県漁業協同組合連合会長賞

2. 文呵乐侃来励	_2. 長崎県馮業協同組合連合会長員				
部門名	受賞者名	概 要			
魅力ある 経営体部門 (経営強化の部)	ゴウ ウラチョ教』を主義 郷ノ浦町漁業協 ウド党ミアジェイティチ 同組合自営定置 (壱岐市)	新規箱網の導入による漁獲能力の向上や、漁網のメンテナンス性の向上により収益のV字回復を実現した。また、未利用魚を養殖魚や延縄漁業の餌として島内業者に出荷し、高品質な漁獲物を加工業者に提供する取組により、水揚金額の向上を図るとともに、雇用条件の改善や雇用の確保にも取り組む漁協自営定置の優良事例となっている。 定置を利用した食害魚のイスズミやアイゴの駆除により、壱岐市内の磯焼け対策にも貢献しており、今後、食材として利用することで食害魚の資源化も期待される。			
魅力ある 経営体部門 (技術・担い手の部)	古巣 和也 (五島市)	先代から受け継いだたこつぼ漁業において、有蓋たこつぼの仕掛けの開発と巻き上げ機の改良により、一人乗り操業に対応した効率的な操業と安定した水揚げを実現した。また、奈留地区周辺海域でのタチウオ曳縄を自らが先導して取り入れ、販売においても創意工夫により高い収益性を確保している。 自らの知識と技術を惜しみなく普及し、地域漁業者の収益性の向上に貢献するとともに、新規漁業就業者の技術指導・育成にも尽力している。			
魅力ある漁村地域部門	サントリントは、サントリンド 諫早湾漁業協同 グジスイセインウキンブ 組合青壮年部 (諫早市)	地元小学生を対象として、基幹漁業であるカキ養殖の稚貝の設置から水揚げまで一連 の流れを体験できる体験学習を長期にわたり自主的に開催している。小長井産カキの消 費拡大とPRに貢献するとともに、住民の食育や漁業への理解を深める機会となっている。 14年間にわたる取組の継続により、地域の多くの若者が小学5年生の時にカキ養殖を体 験しており、地域の漁業後継者確保・育成への効果も期待される。			

3. 特別賞(ながさき水産業大賞運営委員会長賞)

受賞者名	概 要		
魅力ある漁村地域部門	が表現を表する。 まつがまつ 柿森定置網協業 グループ (五島市)	底建定置網の導入により、操業の長期化や省人化、コスト削減を図るとともに、網替えや大漁時の出荷作業の協業体制を構築した。販売面においても、共同出荷による経費削減に努めることで、離島漁業の課題である人手不足に対応しつつ、経営強化も実現。経年的に底建定置網を増統し、玉之浦地区の主要産業に発展している。 各経営体においては、観光定置や民宿等の運営、高校生の体験研修や就業希望者の受入れにも積極的に携わり、地域の賑わい・活性化にも大きく貢献している。	
魅力ある漁村地域部門	(壱 岐市) キョキョウェッドウ では東部漁業協同 タディイッポッツ タディ 組合一本釣り組合 キアミブカイ さわら「極」部会	市場仲卸業者や仲買業者に評価・指導を受けながら鮮度管理ガイドラインを作成し、良質なサワラを『壱岐さわら「極」』としてブランド化した。さらに、各漁業者によるガイドラインの徹底や、出荷先からの評価をフィードバックすることで品質を向上させ、販売価格の向上を実現した。 ブランド化の取組を通じ、地域の漁業者全体の鮮度管理への意識が高まることで、漁協全体のサワラの単価向上にも貢献している。	
魅力ある漁村地域部門	サガサキシシジュ ギョギョウ 長崎市新三重漁業 キョウがヴジアイ 協同組合 サンアミブカイ セイネンブ 刺網部会青年部 (長崎市)	刺網漁業の揚網の際にかかる大量のゴミが操業に支障をきたしていたことが発端となり、海洋環境の悪化に危機感を感じ、刺網部会青年部において操業中のゴミの回収・処分を決定。活動は漁協内でも評価が高まり、協力者が広がるなど、地域内での環境保全への意識向上に貢献している。 漁業者が自主的に行なう環境保全の取組として、他の模範となるものであり、地域内外への波及効果が期待される。	